

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

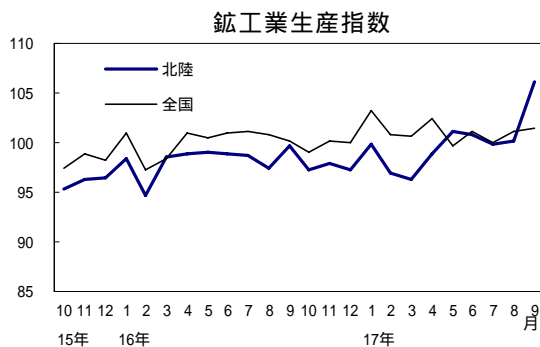
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、金属工作機械、土木建設機械が高水準で推移するとともに、繊維機械が、主に中国向け需要の回復により好調に推移したことから、増加している。電子部品・デバイスは、デジタル家電向け、携帯電話向けを中心に、半導体素子・集積回路が好調に推移し、電子部品にも動きがみられたことから、増加している。化学は、プラスチックや界面活性剤に動きがみられたことから、増加している。繊維は、非衣料品が自動車内装材や電磁波遮断材を中心に好調に推移したものの、衣料品が弱含んで推移したことから、減少している。金属製品は、住宅用、ビル用ともに弱含んで推移したことから、減少に転じている。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年9月の北陸は速報値。

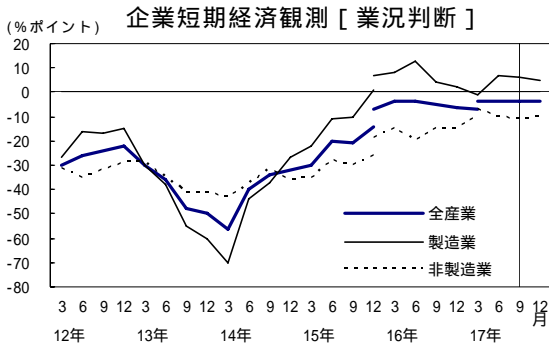
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 4~6 月期 | 7~9 月期 | 7~9 月期 | 7~9 月期 |
| 一般機械 | 14.8 | 2.3 | 4.0 | - | - |
| 電子部品・デバイス | 13.8 | 3.5 | 10.3 | - | - |
| 化学 | 12.7 | 7.7 | 1.7 | - | - |
| 繊維 | 12.4 | 0.1 | 2.2 | - | - |
| 金属製品 | 10.6 | 1.9 | 2.6 | - | - |
| 鉱工業 | 100.0 | 2.6 | 1.9 | - | - |

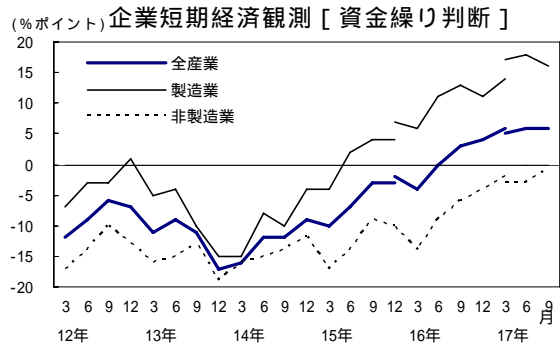
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

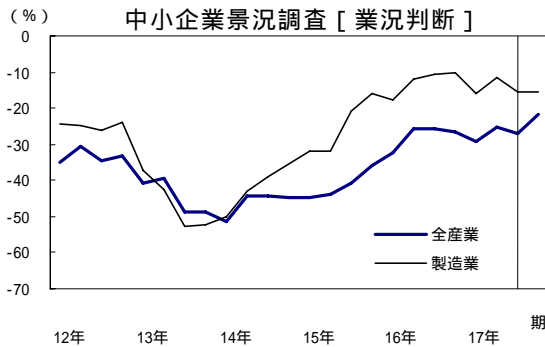
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

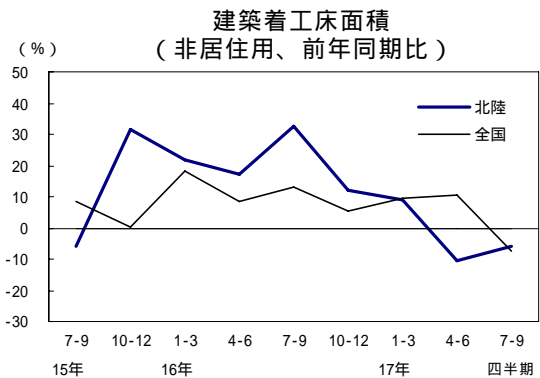
「原油価格の高騰で輸送コストは上昇しているが、それに伴った運賃の値上げが見込めないため、利幅が減少している(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

| | (前年度比、%) | |
|------|----------|------------|
| | 16年度実績 | 17年度計画 |
| 全産業 | 17.5 | 8.0 (7.2) |
| 製造業 | 35.6 | 7.9 (10.5) |
| 非製造業 | 5.7 | 8.1 (1.3) |

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

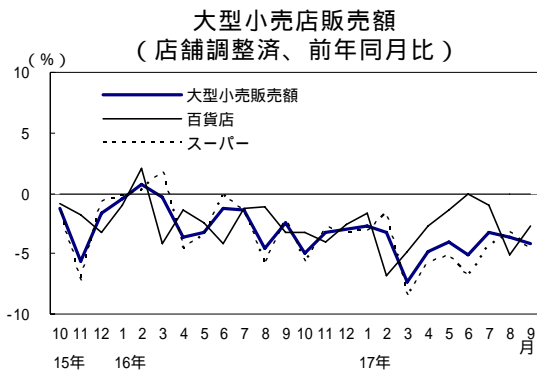
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クールビズ効果から衣料品が前年を上回ったものの、飲食料品が前年を下回ったことなどから、全体でも前年を下回った。8月は、引き続きクールビズ効果がみられたものの前年に行った特別セールスの反動などから、全体では前年を下回った。9月は、上旬に気温が下がらなかったことから秋物衣料品を中心に振るわず、全体でも前年を下回った。スーパーは、野菜など生鮮品の価格下落や競合の激化などから、期間を通じて飲食料品、衣料品ともに前年を下回り、全体としては18か月連続して前年を下回った。

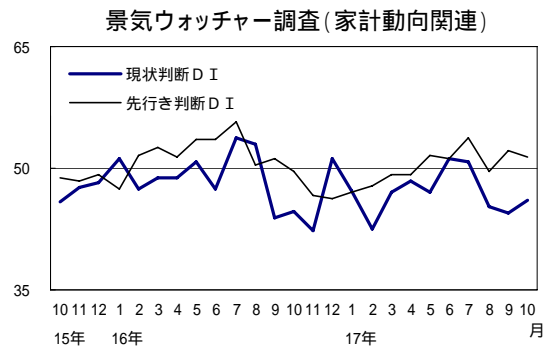
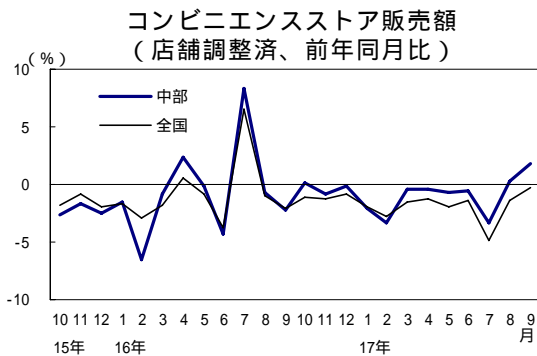
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「プリンターインク、用紙、デジタルカメラメモリー、USBメモリーなど小物のサプライ品の動きは良いが、プリンター、デジタルカメラ、パソコンなどの本体が前年割れとなっている。客の財布のひもはまだ完全に緩んでいない(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



| | (前年同月比、%) | | | |
|----------|-----------|---------|------|------|
| | 16年10-12月 | 17年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 |
| 大型小売店 | 3.7 | 4.3 | 4.6 | 3.7 |
| 百貨店 | 3.2 | 4.3 | 1.4 | 2.7 |
| スーパー | 3.9 | 4.3 | 5.9 | 4.1 |
| コンビニ | 0.3 | 1.9 | 0.5 | 0.5 |
| 景気ウォッチャー | 46.1 | 45.6 | 48.9 | 46.8 |

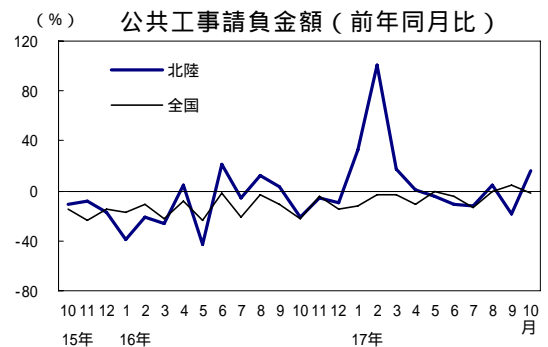
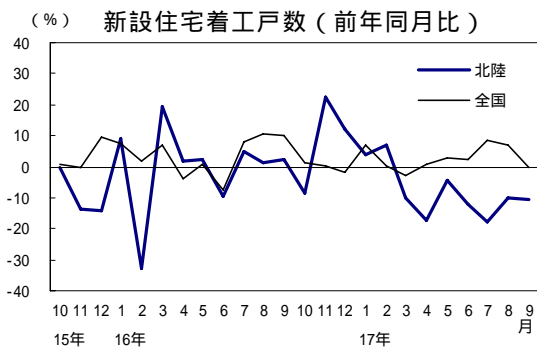
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。17年7-9月期は速報値。コンビニは店舗調整済。中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

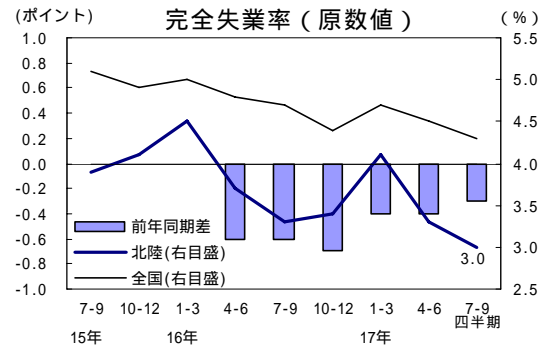
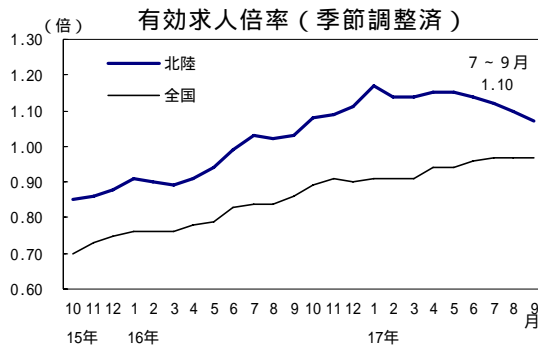


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

「前年比べて企業からの求人数が多く、学生の採用内定も多い（学校〔大学〕）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

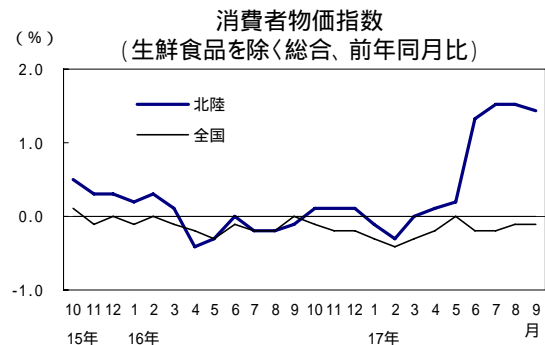
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

10月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|-----------|---------|------|------|--------|
| | 16年10-12月 | 17年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 17年10月 |
| 倒産件数 | 66 | 71 | 52 | 74 | 25 |
| (前年比) | 21.4 | 29.7 | 44.7 | 1.3 | 56.3 |
| 負債総額 | 319 | 385 | 126 | 164 | 73 |
| (前年比) | 8.4 | 28.6 | 42.2 | 61.7 | 51.1 |



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・来客数が下げ止まった。ブライダル、新築などの客の動きが良くなり、客単価も上がっている（住関連専門店）。

<先行き>

・ジャケットやインナー類のセット販売を強化しない限り、コートなど重衣料の販売不足分はカバーできない。また、今後気温が下がらないと、コートの値下げが懸念される（百貨店）。

景気ウォッチャー調査（合計）

